

アソシアシオンの可能性 —人間らしく生きるために—

二村 淳子 教授

(比較芸術論)

「アソシアション」というフランスの制度を聞いたことがありますか。二人以上の者が、利益の分配以外の目的のために、自分たちの知識や活動を恒常的に共有するための団体のことで、日本語では「非営利団体」と訳されています。フランスで1901年に法律で規定されたこの制度は、だれでも（外国人でも）、二人以上集まって、何かの社会的・環境的・文化的・人道的な目的をもって自由に団体をつくることのできるシステムです。2018年時点フランスで登録されていたアソシアシオンの数は130万を数えます。有名なものには「国境なき医師団」や「心のレストラン」があります。

フランスに住んでいたころ、私の周囲には、アソシアシオンのレストラン、カフェ、ダンス・ヨガ学校などがありました。娘がフランスで通っていた幼稚園も、公立や私立ではなく、アソシアション経営の幼稚園でした。よく利用したのは、ヒッチハイクのマッチングをする団体です。例えば、パリからマルセイユにいきたいと申請しておく、同日に車で行く人を見つけ紹介してくれます。私はガソリン代の一部を払うことで車に乗せてもらうことができます。格安で移動できて、しかも二酸化炭素の減量につながりますし、会員制（身元が確かな方々）なので安全です。40年間セクハラなどの事件は皆無だったそうです。

アソシアションが会社と違うことは、営利追求を目的としていないことです。その団体自体が利益を吸って大きくなり、構成員の間で利益分配すること、不労働収益を得ることは禁止されています。ただし、働いた相応の報酬（日当や月収）を得ることは可能です。フランスの雇用のおよそ9%がアソシアションによる雇用なのです。金儲けではないけど、反・資本主義でもありません。

1995年、私は、留学生の身分でフランス人の友人二人とアソシアションをつくりました。日仏文化交流が目的の団体です。雑誌を出版し、レコードレーベルを立ち上げてイベントを行い、お店まで運営しました。スタート資金はほぼゼロで、非課税。後に、文化省とスポーツと若者省から助成金を得ることができ、なんとか4年間やりくりすることができました。こうして数年間、自分自身を含める何人かの雇用機会を作り出しつつ、フランスの社会に溶け込むことができました。アソシアション制度を利用すれば、好きなことを仕事にできますし、気の合う仲間とのコミュニティづくりができるのです。

行き過ぎた資本主義システム、拝金的な価値観、相次ぐ貧困と自殺、地球生命の破壊…。暗いニュースが多い昨今ですが、アソシアションの制度は、こうした風潮にストップをかけることができるのではないかと私は考えます。利益は二の次で、連帯や相互扶助といった人間性を重視するアソシアションが増えれば、行き過ぎた無限競争マネーゲームにブレーキをかけ、人間らしく生きる権利を取り戻すことができるのではないのでしょうか。
